

令和元年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム しずくいし かっこう(2階)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100966		
法人名	株式会社 しずく		
事業所名	グループホーム しずくいし かっこう(2階)		
所在地	〒020-0572 岩手郡雫石町西安庭15-81-26		
自己評価作成日	令和元年8月1日	評価結果市町村受理日	令和元年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざしたホーム作りを目指してします。ホームの行事に地域の方を招待したり、地域の行事に招いてもらったりという関係性ができてきました。また、園芸療法や音楽療法を取り入れ、入居者様がゆったりと、安心して生活していただけるように支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanitrue&JiyosyoCd=0372100966-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、社員寮をグループホームにリニューアルした二階建てで、ダム湖や温泉地が隣接した自然に恵まれた静かな環境の中に立地している。1階と2階のそれぞれのユニットで生活領域の独立性を保ちながら、利用者は生活している。事業所と地域との繋がりも深く、駐車場を子供たちの夏休みのラジオ体操の場所に提供したり、町防犯協会から「こども110番の家」の指定を受け、子供たちの通学の安全を担うなど、地域の一員としての活動に取り組んでいる。日々のケアに外部講師を招き、じゃんけんや軽体操を交えた音楽療法を取り入れ、入居者は普段から歌を口ずさむ等、表情豊かで楽しそうに過ごしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年8月23日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

事業所名：グループホーム しずくいし かつこう(2階)

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に掲げ、目のつく場所にあり共有はしているが実践できているとは思わない	理念を事務所内に掲示し、朝礼時に唱和する等して職員間で共有している。理念を意識したケアプランの実践に取り組んでいる。	現在の理念は、策定してから年月を経れており、職員のモチベーションを高めていくためにも、理念の持つ意味を改めて振り返り、事業所内で話し合う機会を設けることが望まれます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には言えないが夏祭りやラジオ体操の場所の提供、こども110番や防災訓練などで交流している	地元自治会に事業所としては加入していないが、事業所が主催する夏祭りには、地元住民に参加していただき、ゲーム・盆踊り・抽選会等をして楽しく交流している。地域の防犯協会から「こども110番の家」の指定を受け、通学路の安全確保の役割りを担っている。夏休み期間の子供会のラジオ体操会場として、事業所の駐車場を提供している。利用者は、居室から体操をしている子供達を見守っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報を作成し、配布している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いを行っていても意見をサービス向上に活かしているとは思えない	年度当初に年間計画を立て、両ユニット合同で2か月に1回開催している。町の担当職員、民生児童委員、住民代表としての区長、利用者代表が委員となっている。避難訓練と合わせ運営推進会議を開催し、委員の意見や感想を運営に活かしている。	委員である行政区長や家族が仕事を持っていることもあり、出席しやすい時間帯や日程等とし、活発な意見交換ができる開催方法を工夫されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者やケアマネが定期的に広報などを持参し、協力関係を築く取り組みをしている	町担当課のグループホーム担当職員は、運営推進会議の委員として参加し、その場を通じ事業所の実情を説明しアドバイスをいただいている。日頃から、事業所広報を役場に持参するなど、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期定期に勉強会をもち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所として「身体拘束に関する指針」を策定している。身体拘束に関する勉強会の他、身体拘束に関するチェック表を作成して3か月毎にカンファレンスを行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は、夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期定期に勉強会をもち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会にて知識を習得し、理解活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ない、理解して頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や受診時など家族から意見や要望を頂く機会を設けてはいるがあまり挙がってこない	利用者全員がコミュニケーションを取れる方なので、担当者が利用者個々のチェックシートに記録して、利用者の思いや意向の把握に努めている。意見箱を玄関に設置しているが、利用する方はいない。家族が面会や利用料の支払い等で来所した機会に、意見要望を聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスを活かし聴いている	毎月開催する職員会議は、管理者が運営に関する職員の意見や提案を聞く機会にもなっている。職員から提案された、2階ユニットの玄関口から座って1階に降りられる昇降機は、既に具体化して設置されている。要望があった浴槽の修理についても、来月に行う方向で進んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件の整備に少しは努めているが足りない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人手不足のため、足りていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会やSGグループ内での研修で交流している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の観察、アセスメントをまとめたものを職員で話し合い、安心の確保や関係の構築に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、事前にある資料に目を通し、入居後の状態を見ながら行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用も含めた対応はあまりしていない		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声かけ、行動共に行っているが良さを引き出せていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事の際に情報交換をして関係は構築できている家族もいればできていない家族もある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係の継続は難しい状況である	面会や通院時の付き添いに訪れる家族と利用者が交流できるように支援している。職員と利用者が地域のスーパーに買い物に出かけた際、懐かしい方々と出会えることもある。月1回、事業所に訪れる出張理容の理容師が、馴染み関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席の位置やソファの移動、家事手伝い、掃除等皆でできるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援はできていないが、会ったときには声をかけている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志の疎通が難しく、意向の把握が困難である	生活歴や家族の情報から入居者の思いや意向の把握に努めている。自分の思いや意向を表現できない入居者も1、2名いるが、表情やしぐさ等から本人本位に読み取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅のケアマネ等からもらった情報をもとに把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りを活用し、入居者の状態を報告把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスで職員で話し合いをし、介護計画を作成している	職員2人で3人の入居者を受け持ち、モニタリング、アセスメントを行っている。ユニットごとに、その結果を基にケアマネージャーが家族の意向を踏まえて立案し、毎月1回開催するカンファレンスで話し合っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、連絡帳、気づきシートを活用し、情報の共有をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスの多機能化に欠ける		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の季節行事や買い物の同行で参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力のもと、継続している。家族の対応が難しい時はホームで対応している	利用者や家族の希望するかかりつけ医となっている。入居後に話し合いのうえ、かかりつけ医を協力医に変更する利用者も居る。協力医は、今年の6月から訪問診療を始め、より受診しやすい環境になったとしている。かかりつけ医の受診は、家族同行を基本としている。利用者の健康管理と急変時の付き添いは看護師が担当している。バイタルチェックデータを医師に提供して適切な受診ができるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調変化など、看護職との情報共有が難しいときがある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係者や家族との連携を図り、早期退院を目指している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で家族には説明を行っている。職員は勉強会を行っているが医療関係者との協働など計画は進んでいない	事業所として、「利用者の重度化及び看取り介護に関する指針」を策定し、利用契約時に説明し同意を得ている。今年の6月から協力医師の訪問診療が受けられるようになり、医療体制が整ったことから、医療機関との連携を図りながら看取りを行う方針で準備を進めている。喀痰吸引の資格取得者が2名いる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や研修に参加し、その報告書を回覧しているが実践力に欠けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、防災訓練や連絡網の確認を行っている	事業所として防火管理者を置き、「防災マニュアル」を作成し、火災想定での避難訓練を年2回(9月と11月)、土砂災害想定での避難訓練を1回(7月)実施している。近くの用水路の氾濫時には、2階のユニットを避難先とするよう消防署から助言を得ている。避難訓練は、運営推進会議の開催に合わせて、地域婦人消防協力隊の参加、協力を得て行われている。スプリンクラー、火災通報装置、自家発電等が設置され、食料品、カセットコンロ等を災害用として備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のケアで対応を気をつけているが、周囲でそうしている所を見かける	職員は、利用者をトイレ誘導する際、大声を発しないように心がけ、一人一人を尊重した介護に努めている。トイレが外から見えないように目隠しカーテンを吊るすなど、利用者の誇りやプライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	アセスメントや日常の会話から、自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心掛けているが職員側の業務を優先してしまっていることが多い		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	業務に追われているが、入浴時に好みの衣類を選ぶようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や盛り付けを手伝ってもらうが、特定の入居者に限られている	利用者の好みも聴きながら、ユニット毎に職員が交代で献立をつくり、調理をして利用者に食事を提供している。栗ご飯、マツタケご飯、サンマ御膳等、できるだけ季節のもの、旬の食材を提供し、食事を楽しんでいただけるように工夫している。誕生会には、お寿司等、利用者の希望するものを提供している。職員と利用者が同じテーブルを囲み一緒に食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢や疾病などを考慮して、食事や水分の量を調節している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや見守りを行ない、不十分なところは介助を行なっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行っているがパットの使用量が減っていないのが現状	トイレでの排泄を大切にしながら、利用者の状態に合ったりハビリパンツや尿取りパット類を選択している。排泄チェック表を使用し、トイレ誘導、排泄自立訓練を行うことでパットを外せたなど、改善された事例がみられ、費用負担の軽減も兼ねた自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や軽運動をして予防に努めているが、下剤服薬者が多い		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で行なってしまうている	週2,3回入浴できるようにしている。入浴のない日は、足浴をして利用者が快適に過ごせるように支援している。今のところ入浴を嫌がる利用者はいない。しょうぶ湯、ゆず湯(入浴剤)など、利用者が入浴を楽しめるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止の為にダブルチェック、変更時の確認、呼名や飲み込みの確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事やドライブなど気分転換に繋がるように努めているが頻度は少ない		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に添う事は難しいがドライブなどで外出の機会を設けている。家族の協力のもと外出や外泊をしたりしている。年に数回、町内の施設で会食や温泉を楽しんでいる	利用者は、天候をみながら外に出て、近くの団地の公園を散策したり、食材の買い物に職員と一緒に、週3回外出している。誕生会の外食、お花見や紅葉見学等の四季のドライブ等行い、利用者が戸外に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで管理している。自身で使用する機会はほとんどない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状がきたり、遠方の家族から電話で会話することがある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾や写真を掲示したり、清潔な空間を保っている	1階、2階がそれぞれのユニットになっており、居室の間取りも同じである。2階ユニット玄関から1階に降りる外階段が付いており、そこに昇降機が設置されている。ホールには、オープンキッチンがあり、食卓、ソファ、テレビが置かれ、湿度・温度をエアコン、加湿器で管理された快適な空間となっている。ホールの壁には、貼り絵等、利用者の作品や行事写真等が貼り出されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席以外にソファがあり、自由に座ることができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いやすいようにレイアウトしたり、馴染みのタンスや椅子を持ってきている。仏壇の持ち込んでいる	居室には、ベッド、クローゼット(8畳間のみ)、暖房機、スタンドが備え付けてある。利用者は、仏壇、テレビ、サイドテーブル、タンス、衣装ケース等、それぞれ使い慣れた馴染みのものを持ち込み、居心地良く過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きく解りやすく表示している。居室にはネームプレートをかけている		